令和６年１月10日（水） 令和５年度　第５回 大阪府河川整備審議会	参考資料１

令和４年度　第３回大阪府河川整備審議会　議事要旨

日　時　：令和５年３月27日（月）10:00～11:40
場　所　：ＯＭＭビル２階201会議室
出席者　：（委員）里深会長・小林委員・阪本委員・菅委員・中桐委員・中村委員・平松委員
計７名（欠席）大久保委員、船曳委員

まとめ

（１）「今後の治水対策の進め方」に基づく治水対策の状況
・今後の審議内容について説明を行った。
（２）気候変動を踏まえた治水計画の検討
・今後の審議内容について説明を行った。
（３）治水専門部会委員の選出について
・治水専門部会の委員として、里深会長は部会長に中桐委員を指名し、委員に里深委員、小林委員、阪本委員を指名した。

概　要　：〔以下、〇委員　●事務局〕

（１）「今後の治水対策の進め方」に基づく治水対策の状況

〇ため池の活用について、貯留するだけで制御ができないが、運用方法などは考えているのか。
●現状、河川整備計画にため池等の治水活用を位置付けており、詳細設計などでため池の運用方法について検討を進めているが、貯留効果の少ないため池もあり、これらのため池の活用について課題認識はしている。ただ一方で、気候変動に伴う降雨量の増加に対しても効果は見込まれるので、ため池の治水活用については引き続き推進していきたい。
〇大阪府の治水対策における自然環境への配慮、取組について教えていただきたい。
●自然環境に配慮した整備を進めてきているので、逐次報告、説明させていただく。
〇治水事業予算の確保ができていないことで、大阪府の治水対策に影響が出ているのか。
●治水事業予算については、減少傾向に加え、人件費や資材価格の高騰による事業費の増大が懸念される。直近１０年間は、南海トラフ巨大地震対策事業にも予算を使ってきており、今後、いかに予算確保するかが課題と考えている。
〇ため池の活用について、定量的な評価をして提示してほしい。
●ため池の定量評価は、可能な限り量で示せるものは、今後示したうえで審議会に諮っていきたい。
〇これまでの自然環境や景観配慮などの河川整備に対する取組に加えて、府民の河川への理解を深め、防災意識を高める取組にも力を入れてほしい。
●今回は、ハード対策に重点を置いた大阪府の治水対策の取組状況の説明であったが、ご指摘とおり、事業効果や防災面の周知など、府民の皆様にも認識いただけるような工夫を行っていきたい。
〇避難について多様な取組がされており、現在、地域で防災対策を進めるにあたり、個別避難計画や地区防災計画の策定が進められている。こういった取組を加えることで、より充実した内容になるのではないか。
●個別避難計画や地区防災計画は、大阪府においても機関部局などが中心になって進めており、こういった内容についても資料に加えて今後説明させていただく。
〇大事なことは、今の河川整備の中で、どこまでが防げてどこからが危険なのかというところを、いかに府民の方々が理解できるか。「防ぐ」や「凌ぐ」取組は、整備で何とかなるが、これからは「逃げる」取組について、重要視していかないといけない。
●「逃げる」取組の情報伝達について、雨量や水位の分かりやすい提供方法などいざというときの活用について、これからも引き続き周知していかなければならないと認識している。

○ため池の機能について、洪水だけではなく、想定外の豪雨には大量の水と同時に流木、土砂も上流から流れ込んでくることが想定されるので、水の処理だけではなく、土砂、流木の対策にも効果があるのではないか。
●ため池の効果について、土砂、流木の面も考慮できるか検討してきたい。
○ハード整備には時間を要するので、リスク周知が大切。ホームページ等でリスク情報を確認できるということだが、有事の際に使用できるかどうか分からない。府民にはハザードマップの重要性を認識していただくとともに、あらゆる機会でリスクを周知していくことが重要。
●府としても、地域のワークショップや、ＳＮＳというのを最大限に活用して、あらゆる機会を通じてリスク周知に努めていきたい。

（２）気候変動を踏まえた治水計画の検討

○今後どのような形で議論を進めていくのか。
●まずは、現状どれぐらい雨が強くなっているのかというのを分析した上で、大阪府域における気候変動を考慮した降雨量の検討結果を提示して審議していただきたいと考えている。
○これから先は気候変動を抑制する取組も同時に必要になってくる。気候変動の抑制に取り組まれている方々も参加して、気候変動を抑制するということもアピールされては。
●気候変動の抑制について、グリーンインフラの取組を河川としてどういったことに取り組んでいるのか現在とりまとめを行っているところ。それらを踏まえて、今後、気候変動の抑制に関する周知などについても、今後意見を踏まえて取り組んでいきたい。
○雨量の増加に対して、実際の被害状況や対策の効果が具体的にどう出てきているか。特に「凌ぐ」対策の具体的な効果が見えにくい。
●現時点では、雨量の増加に対しそこまで大きな被害は発生していないという認識ではあるが、府の取組、特に「逃げる」、「凌ぐ」の施策について、効果を提示できるよう検討する。
○気候変動に対して、当面の治水目標を達成できない可能性があるとしているが、計画規模を超える雨の頻度などもう少し整理した方がよい。また、河川整備についても、進捗状況に応じた対応を整理する必要がある。
●それぞれ地域で詳細にどういう雨が降ったのか、計画規模以上の雨の頻度がどれぐらいあるのかなど評価を行っていきたい。また、河川整備の見直しの件についても、手戻りがないよう地域ごとに分析をしていく。
○気候変動は降雨量の増加だけではなく少雨による渇水なども問題であり、様々なシミュレーション、パターンを考えなければならない。
●現在は気候変動による降雨量の増加を検討しているが、河川管理者としては、維持用水等も重要な要素なので、降雨分析の中で雨の傾向はしっかり把握していきたい。また、局所的な集中豪雨や線状降水帯の状況についても、気象庁などからも情報収集し、幅広く検討していく。

（３）治水専門部会委員の選出について

・治水専門部会の委員として、里深会長は部会長に中桐委員を指名し、委員に里深委員、小林委員、阪本委員を指名した。

大阪府河川整備審議会　令和５年度第１回治水専門部会　議事要旨

日　時　：令和５年７月３日（月）17:00～18:00
場　所　：西大阪治水事務所１階会議室（WEB 併用）
出席者　：（委員）中桐部会長・小林委員・阪本委員・里深委員　　計４名
内　容　：

実績降雨の分析と治水対策の検討の進め方 ・実績降雨の分析結果について説明。 ・今後、モデル河川を選定し、将来的な外力増大を想定した流量に対する河川整備及び流域治水対策メニュー、計画規模を超える降雨に対するソフト対策等の検討を行う。

概　要　：〔以下、○委員　●事務局〕

実績降雨の分析と治水対策の検討の進め方

○降雨の継続時間について、府が管理する河川は延長や流域の大きさが異なることから、河川ごとに着目する時間スケールを検討するべきである。

●合理式でピーク流量を算定している流域の小さい河川の洪水到達時間は１時間前後が多いが、寝屋川流域では計画降雨の継続時間を 24 時間に設定しているなど、河川によって違いがある。今後、流域の大きさ、特性が異なる河川をモデルとして選定し、具体的な治水対策の検討を行う。

○近年、降雨強度の強い雨が観測されているのに対し、確率雨量は増大している状況とは言えない理由は。

●観測所毎に見ると強い雨が観測されているが、広範囲で同時に強い雨が降っているケースが少なく、またデータ数が増加しているため、確率雨量としては大きくなっていないと考えられる。

○確率雨量は頻度分布に基づき算出しており、２、３回大きな雨が降ったからといって、それより弱い雨が元の頻度分布と変わらない状態であれば確率雨量は変わらない。そのことと、最近強い雨が増えているか、減っているかということとは別の観点であることを認識しておく必要がある。

○気候変動の有無に関わらず、計画を超える大きな雨が降る可能性はある。河川整備には限界があるということを示し、流域治水でいかに対応するかを整理した方がよい。

●ハード対策には限界があり、それを補うため、府が進めている凌ぐ施策や逃げる施策も組み合わせて治水対策に取り組んでいきたい。

○大阪府では雨量データが揃っているため、確率雨量を用いるのではなく、過去の実績データに基づき、コスト等も踏まえて対策を考えるというのも方向性としてあるのでは。

●ハード対策については一定の目標を定めて進めるものであり、今後、目標以上に外力が増大した場合、具体的にどのように対策を組み合わせて対応していくのかお示ししたい。

○計画の雨量を大きくしたとしても、予算の制限もあり河川事業の進み方は大きく変わらない。全てのハード整備を同じように考えるのではなく、暗渠部分など作り変えることが困難な構造物などについては、将来的な降雨の増大を見越して計画するなど、切り分けて考えることが必要。

●どのような場合に将来的な外力の増大を想定して計画を立てる必要があるのかについては、今後整理していきたい。

大阪府河川整備審議会　令和５年度第２回治水専門部会　議事要旨

日　時　：令和５年 10 月 16 日（月曜日）17:00～18:15
場　所　：西大阪治水事務所１階会議室（WEB 併用）
出席者　：（委員）中桐部会長・小林委員・阪本委員・里深委員　　計４名
内　容　：

将来的な降雨量、流量の増大を想定した場合の治水対策の進め方の検討
・現時点では、河川整備の進捗状況等や実績降雨の分析結果を踏まえ、現河川整備計画における当面の治水目標の達成を優先
・併せて、流域のあらゆる関係者が、ハード・ソフト一体で多層的に取組む治水対策について検討
・将来的に降雨量が増大する想定の下、現河川整備計画の目標達成状況に合わせた次期計画への変更検討のため、府域の気候変動の影響予測や課題等を整理

概　要　：〔以下、○委員　●事務局〕

○大阪府では、現時点で気候変動の影響は確認できないため、限られた現予算の範囲内で可能な対策を実施するという考え方か。
●国費の獲得も含め、事業費を確保していきたいと考えており、国への要望活動等を行っている。しかし、人件費や資材価格の高騰で事業費が増加してきていることもあり、現時点で河川整備の方針を変更したとしても、整備済み河川の再整備が必要になる手戻りや、府全体の当面の治水目標の達成時期に遅れが生じる。府内一律の計画変更は困難と考えているが、気候変動に対する準備については、可能な限り進めていきたい。
○河川整備が７、８割完了していれば、整備目標の引き上げに着手してもよいかもしれないが、現在はそのような状況にない。目標を大きくしても整備が進むわけではなく、将来、目標を変更した際に、現在進めている整備に手戻りが生じない形を目指すことが必要である。
○計画を超える降雨は必ず発生するため、その際、どのような考え方で河川整備を進めているのか説明できることと、被害を最小化するような対策をどの程度取れているかが重要である。
●現河川整備計画のハード整備と併せて、逃げる・凌ぐ施策を多層的に進めつつ、府域における気候変動の影響予測や治水安全度のバランス、各河川の特性を踏まえて気候変動への対応についても準備を進める。
○実績降雨の分析結果において、現時点で確率降雨量の増大は見られないが、これは、今後、大阪府で降雨量が増加しないということではないため、情報発信の際に誤解が生じないよう考慮頂きたい。
○全国的な動向や近年発生した府域の降雨事象など、実績降雨の分析を実施した理由を記載した方がよいのでは。
●実績降雨の分析結果については、誤解を生じないような表現に修正する。
○全国的に気候変動により降雨量が増える傾向がある以上、リスクは高まるため、逃げる・凌ぐ対策を早急に進めなければならないことを示す必要がある。
○治水対策は、河川管理者が実施するハード整備に限定されたものではなく、ソフト対策も両輪で進めるものということを明確に記載した方がよいのでは。
○今後、大阪府としてどのようなメッセージを発信していくのか、検討いただきたい。
●次回の河川整備審議会では、逃げる・凌ぐ・防ぐ施策を多層的に進めていくという考え方を丁寧に説明させて頂く。